

今日のみ言葉 270 「キリストの言葉を」 2017.06.13

信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まる。 (ローマ書 10 の 17)

キリストの言葉を、あなた方の内に豊かに宿らせなさい。 (コロサイ書 3 の 16)

Faith comes by hearing, and hearing by the word of Christ .

Let the word of Christ dwell in you richly.

信仰は、何からはじまるのか。それは、キリストの言葉を聞くことによってである。キリスト以来 **2000** 年、世界中で、キリストの言葉によって信仰を与えられた人たちにより、その生涯にわたってその真理が体験され、証しされてきた。

12 弟子たちもキリストから直接に呼びかけられ、また使徒パウロも復活したキリストからの語りかけによってキリストを救い主と信じるように変えられた。

現在の私たちも、復活していまも神と同じ存在になったキリストの語りかけによって信仰への道が万人に開かれている。復活ののちは、聖霊となったキリストから直接に語りかけを受けて信じるようになった人たち、また直接のキリストの言葉でなくとも、信じた人の言動、

またその生き方によって、キリストの言葉を聞くようになった人、また私のように、一冊の本に書かれたあったキリストの言葉によってキリストを信じるようになった人々も数多くいる。

キリストは、遠い昔の単なる偉人ではない。現在も世界中で、生きて働いておられ、その言葉を人々に与え続けている。それゆえに、キリストを信じる人は、絶えることなく、つづいてきた。

聖書の言葉、とくに新約聖書に記されている言葉は、地上で生きておられたイエスの言葉（福音書の言葉）と共に、十字架での処刑後、復活して聖霊となったキリストの言葉を啓示されて記された言葉も多く記されている。

ローマやコリント、エペソ…等々の地方のキリスト者に宛てた手紙には、受けとった使徒たちによって書かれたものであり、それらもキリストの言葉だということができる。

さらに、キリストは、地上にこられる前には、神と同一であり、万物を創造し、さらに現在も万物を支えていると記されている。（ヨハネ1の3、ヘブル書1の2～3、コロサイ1の16～17）それゆえに、自然のさまざまな草木や大空や、星、雲、青い海、山野等々、みなキリストのご意志によって創造されたゆえに、その愛や真実、あるいは神（キリスト）の深い御計画が刻まれたものと言える。それゆえに、そうした身近な自然のさまざまな姿、色、美、力…等々もキリストの

言葉の表れでもある。

そのように、さまざまのところから、キリストはその御言葉を私たちに語りかけ、新たな人たちが、キリストを信じるようになり、そして周囲の人たちに、後世へと伝えていく。

そのような力をもっているキリストの言葉を常に内にとどめることによって私たちはいかなる闇と混乱があろうとも、希望を持ち続けることが可能となる道が備えられている。

人間の言葉が、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネット…等々、歴史上でかつてない規模においてこの世界にはんらんしている現代にあって、神の言葉、キリストの言葉を聞くことの重要性はそれゆえに、かつてないほど増している。

「御言葉を愛するものは、川のほとりに植えられた木のような。時が来れば実を結び、葉もしおれることがない。」（詩篇1篇より）

野草と樹木たち コバギボウシ 秋田駒ヶ岳 2016.7.22



東北、北海道には高山植物が、近畿以西の山々とは比較にならないほど豊かに存在する山域があります。秋田駒ヶ岳（標高1637m）もその一つです。各地にある駒ヶ岳という名前の山々でも、最も高山植物が多い山とされています。

この花は、多くの人が登る登山ルートとは別の、少数の人たちしか歩かないルートで見いだした花です。ギボウシシは、園芸用として花壇にもよく見られる花ですが、各地の山野でも見られ、これはその一つです。葉の大きいオオバギボウシに比して、小さい葉なので、コバ（小葉）ギボウシといいます。

この花の高さは30～50cm、葉の長さは10～20cm、幅は4～8cmほ

ど。花期は7～9月で、ろうと斗型の濃い紫色から淡紫色の花をやや下向きにつけます。

標高1500mほどの、人のわずかしかな通らない登山道にあって、緑の高原にこの紫色の花が静かにたたずんでいる様は、印象に残るものでした。

誰一人見るものがなくとも、はるかな昔からこの付近で咲いていたであろうこの花、神は、人間とちがって他者から評価されることを目的としてきれいに着飾ることなく、ただ天に向かって咲いています。

沈黙でありつつ雄弁、この花が高原の草地のところどころに咲いている姿を見ていると、その声なき語りかけを聞く思いです。

つぼみも開いた花もその姿や色調が、接する者に何か天の国からの雰囲気を感じさせてくれます。 (文、写真とも T.YOSHIMURA)